

東地協ニュース 2004. 冬 第5号



自然のもつ二面性を理解しよう

東京都立大学大学院理学研究科

教授 山崎 晴雄 (協会理事)

10月23日の新潟県中越地震では山古志村などの山地内で大規模地すべりが多発し、それが谷を埋めてダムとなり、上流域の住家が水没するという、近年の地震ではみられなかったタイプの災害が生じている。しかし、これは予想できなかったことではない。被災された方々にはたいへんお気の毒だが、同様の現象は過去にも起きていたはずで、それが地滑り地帯特有の池などを多数作り、特産のコシヒカリを作る山地内での水田耕作や錦鯉の養殖を可能にしていたのである。自然は多くの恵みを与えてくれるが同時にそれは稀にはあるが大規模な災害の原因にもなる。日本列島で生きていくためにはこの自然の持つ二面性を理解し対応を考えなくてはならないだろう。

そんな中で気になったのは、行政やマスコミが「天然ダム」という名称は災害のイメージに合わないというので、「土砂ダム」とか「震災ダム」などに呼称を変えるようになったことだ。別にどんな名前でもかまわないが、心配なのはこのような動きには自然の持つ二面性に全く考えが及んでいないのでは、と思えることだ。紅葉を映す山間の湖の景色は美しいが、それは決して初めからそうだったわけではない。恐ろしい火山噴火や大規模な地滑りの結果であることが多いのだ。我々が日常生活している平野も、その平坦さは過去に繰り返された大規模な洪水によって土砂が埋められて作られたものだし、その土砂をためる凹地は大地震を伴う活断層の運動で形成されたものなのである。「天然」とか「自然」と言う言葉は確かに優しく、美しいイメージを与えるが、実際の自然の動きの中では時として人間に災害という形で悲惨な影響を与えてきたことを忘れてはならない。国が目標としている安全で快適な社会とは稀に起きる異常な自然現象にも柔軟に対応して被害を最小限に留めることのできる社会であろう。そのためには、行政やマスコミを含めた多くの人が土地の成り立ちについて関心を持ち、開発や防災など様々な事業が土地の形成過程を十分に考慮した上で進められる世の中にする必要がある。そのような社会を築いていく上で、地質調査業の果たす役割は重大である。

会議報告等

1. 9月7日理事会・全体委員会

- (1) 入会申し込みに対する関東理事会の見解
都外本社会員の入会申し込みに対し、関東理事会より、異論があり保留扱いとなった。
- (2) 会員紹介名簿について
- (3) 都議会自由民主党からの平成17年度東京都予算に対する要望の件
平成16年10月12日午後実施
- (4) 協会税務調査の件
平成16年9月15～16日、平成13～現在迄の源泉税に関する調査が実施された。
- (5) 伊藤公介と明日の日本を熱く語る集い
9月14日 大越会長出席
- (6) 東京都2004技術フォーラム（10月29日）

2. 11月10日理事会・全体委員会

- (1) 新潟県中越地震に対する取り扱いについて
地域的偏りもあることから、関東協会の出方をみて対応することとした。
関東協会では11月11日の打合せで、義捐金30万円を送るとともに、業界全体として国交省（関東地方整備局）や地方自治体との連絡・協力体制の構築について全地連へ提案することとした。
- (2) 会員の入会の件
9月理事会で保留となった1社及び、会員紹介名簿作成の関係で事後承認となる1社について、追認を提案し、何れも10月1日に遡って入会を承認された。
千葉エンジニアリング株式会社 東京支社
株式会社 大東地質
- (3) 神田税務署源泉税調査結果報告
課税対象額が当初の1/5に減額され、10月21日追徴金33,837円を払い込んだ。

- (4) 都議会自由民主党への平成17年度東京都事業と予算に対する陳情の件（10月12日）

<陳情項目>

- 1) 防災事業の促進・より一層の予算の充実について
2) 地質調査技術の確立及び地位の確立
- (5) 比留間敏夫君の都議会自民党幹事長就任を祝う会について
12月21日 大越会長出席予定
- (6) 会員紹介名簿と業務案内の発行
10月にそれぞれ1,000部を発行した。
- (7) 広報陳情・PRについて
11～12月にかけてPRを実施した。
- (8) 技術委員の交替及び増員

【交替】

新 佐久間春之（株東建ジオテック） 講演部会
旧 濱田光康（ " ）

【増員】 環境部会

新規委員 岡 信太郎（株地盤試験所）

- (9) 東京都2004技術フォーラム結果報告
参加者・・・講演・発表会70名，懇親会47名
- (10) 土壌汚染パンフレットの作成について
パンフレットの作成とHPの拡充リンクについても検討中。
- (11) 協会20周年懇親パーティ開催について
協会は昭和60年に設立され(旧任意団体)、平成10年10月発展的に解消し、現在の社団法人となり、17年4月に設立20周年を迎える。
20周年に当たり、協会の発展に貢献された役員・委員等の諸先輩をお招きして会費制による懇親のパーティを3月の事業と予算の総会当日に開催したい。詳細は総務委員会が中心となり、検討予定である。

総務委員会活動報告

これまで4ヶ月の活動を報告いたします。

- ・第4回 総務委員会 8月30日(月)
 - 収支決算報告
 - 入会申込会社の審査
 - 「東地協ニュース」第4号について
 - その他
- ・9月15日に税務調査があり、当協会から石井事務局長、鳥塚総務委員長が出席して対応した。
- ・10月12日に東京都議会自由民主党に平成17年度東京都予算等に対する陳情書を提出した。当協会より5名出席。
- ・10月28日に首都道路協議会の秋季講演会に2名出席。
- ・新入会員2社が加入届を提出し、理事会にかけ、承認を得る。詳細は最後に掲げる。
- ・第5回 総務委員会 11月30日(火)
 - 収支決算報告
 - 「東地協ニュース」第5号について
 - 協会20周年記念パーティについて
- ・パンフ作成委員会(協会パンフレット及び会員名簿)

なお、総務委員会主導でパンフ作成小委員会を同時に開催している。10月中に納品し、広報委員会に後を任せる。

当委員会は7月にメンバーを集め色々と意見交換をしながら数回の会議を経て10月に完成し、11月の理事会後、当委員会は解散した。
- ・20周年記念パーティの開催を総務委員を中心とした実行委員会にて計画中。来年3月を予定。詳細については後日、連絡します。

(総務委員長 鳥塚 明)

技術委員会活動報告

平成16年度9月～12月現在までの技術委員会活動報告をさせていただきます。

はじめに「ノート部会」の活動について報告いたします。技術ノート37号「東京湾」は、11月16日に発刊のはこびとなりました。本号は、主に東京湾沿岸の地形地質、埋立の歴史や港湾整備の変遷にともなう物流の変化などを取り上げております。取材は、主に東京都港湾局および東京みなと館、東京物流館に焦点をあてて進めました。

いつも手前味噌で恐縮ですが、本号も大変読みやすくかつ内容豊富な出来映えになっており、地質情報から東京湾の漁獲の変遷およびそれら海産物をつかった料理などを紹介しております。是非、一読をお勧めいたします。

「講演部会」のメインイベントである技術フォーラムは、10月29日(金)に品川区「きゅりあん」で盛況のうちに開催されました。これについての詳細は、別に報告させていただいておりますので割愛させていただきます。

「環境部会」は、環境事業の各種業界団体とのパイプづくりを進めております。今回の技術フォーラムでの特別講演には、(社)日本環境測定分析協会から講師を一人派遣していただきましたことが最初の成果の一つです。

一方、当部会では、地質調査業協会として環境市場を広げるために、土壌汚染調査に関するパンフレット作成を進めております。また、区市町村の土壌汚染に関する条例等を紹介やそこへアクセスするホームページの拡充も併せて行っております。

私たち技術委員会は、会員皆様のサービス向上に前向きに努力し、かつ、遊び心を絶やさずに活動を楽しんでおりますのでご支援下さい。なお、ひきつづいて技術委員を募集しております。会員各社の技術者の方々のご参加を待っております。(^^)よろしく申し上げます。

(技術委員長 大竹 勉)

広報委員会活動報告

初めに、受注減、入札制度改革等々でこれまで以上に忙しい中、会員企業並びに各広報委員の方々には、ご協力を頂き誠に有難う御座いました。

さて、本題の活動報告ですが下記のとおり実施いたしました。

第1回広報委員会（平成16年6月25日15時～17時）

- 議題 1. 第13回通常総会報告
2. 担当地区の見直しについて
3. 前期広報活動について

第2回広報委員会（平成16年10月2日15時～17時）

- 議題 1. 理事会(9月)の報告
2. 新規業務案内・会員紹介名簿について
3. 広報活動について

平成16年度前期広報活動（平成16年11月）

【広報先】

国関係

国土交通省	6事務所、30ヶ所
東京郵政公社	2ヶ所
都市基盤整備公団	3事務所、11ヶ所
首都高速道路公団	3事務所、14ヶ所
東京地下鉄(株)	8ヶ所

東京都関係

事務所	38事務所、180ヶ所
住宅供給公社	4ヶ所
東京消防庁	2ヶ所
東京港埠頭公社	3ヶ所
新都市建設公社	9ヶ所
道路公社	2ヶ所
区役所	23区、147ヶ所
市役所	26市、118ヶ所
町役場	3町、9ヶ所
村役場	1村、2ヶ所

【配布資料】

技術ノート	316冊
協会案内	320冊
会員名簿	330冊
業務経歴	225冊

平成16年12月3日15時～17時

- 議題 1. 理事会(11月)の報告
2. 前期広報活動報告
3. 後期広報活動について
(平成17年2月頃実施予定)

(次回の広報委員会は平成17年3月頃の予定)

最後に、広報委員を募集しておりますので、是非ご検討下さい。又、体験参加だけでも大歓迎です。詳しくは事務局までご連絡下さい。お待ちしております。

(広報委員長 中込 実敏)

特別委員会活動報告

平成16年10月23日夕刻に新潟県中越地震が発生しました。マグニチュード6.8、最大震度7の大地震でした。中越地震の特徴は地盤破壊と言われており、文字どおり生活基盤である地盤がいかに大切であることを再認識させる地震でした。

それでは、最近4ヶ月の特別委員会の活動報告をいたします。

・第2回特別委員会 平成16年9月7日(火)

協会のPR資料として、協会案内(パンフレット)の改訂版と新会員名簿(これらは10月中旬完成予定)、「技術ノート No.37 特集 東京湾」(11月中旬完成予定))を作成中との中間報告を受け、資料の完成後、その資料を用いて対外的な協会PR活動を行うと共に、新規会員開拓資料としても活用していきたいと思っております。

・第3回特別委員会 平成16年11月10日(水)

平成16年10月1日付で2社の新規入会が承認されたことを報告。大変喜ばしいことであり、今後も各社のご協力、ご支援をいただき、さらに当協会の発展を目指していきたいと思っております。各委員にも協会PRに努めていただき、徐々にその成果が実りつつあります。皆様のご協力、ご支援を切にお願い申し上げます。

(特別委員会委員長 早田 守廣)

☆ 特別委員会委員名簿 ☆

委員長	早田守廣(大和探査技術(株))
副委員長	前川勝男((株)セントラルソイル)
委員	鈴木明夫((株)セントラル技研)
委員	赤澤元重(川崎地質(株))
委員	山口幸雄((株)東京ソイルリサーチ)
委員	横田義男(応用地質(株))
委員	田村丈史(中央開発(株))

トピックス(協会行事紹介)

東京都 2004 技術フォーラム



東京都 2004 技術フォーラムは、平成 16 年 10 月 29 日(金)、品川区大井町の品川区立総合区民会館(きゅりあん)で開催されました。

本フォーラムもすでに、9 回を数える開催となり、技術委員会の大きな活動の柱となってきています。

年々多彩で充実した発表や特別講演がおこなわれ、会員各社の技術者や関係公官署職員の方々からたいへん好評をいただいております。

本年は、技術発表 13 編のほかに特別講演 2 編の講演があり、その関係で例年より時間を早めて開始しましたが、70 名の出席をいただき盛況のうちに発表会を終えることができました。

今回は初の試みとして、昨今大変話題となっている土壌汚染に関する特別講演を 2 題おこないました。

財団法人 化学物質評価研究機構の本橋勝紀氏には「土壌汚染調査における分析の実際」と題して、溶出試験、含有量試験の具体的な方法や分析機器の紹介を、独立行政法人 産業技術総合研究所の丸茂克美氏には「自然由来の重金属土壌汚染の現状と調査法・対策法」と題して、自然由来の汚染土壌の現状、汚染物質の自然由来と人為由来汚染の識別法、現場における簡易分析方法についてご紹介をいただきました。

短い時間の中で、大変興味深い貴重なご講演をいただきました両先生には厚く感謝申し上げます。

また、ご多忙の中発表をおこなっていただいた各発表者の皆様や長時間にわたり熱心に聴講や質疑をされました聴講者の方々にもお礼申し上げます。限られた発表時間の関係で十分な討議ができず、本来

の技術フォーラムの目的である活発で自由な発表の場という意味ではやや物足りない感がありましたが、今後のフォーラムの方向性を探る手がかりになれば幸いです。

フォーラム終了後は会場をとなりの部屋に移し、47 名の参加を得て盛大に懇親パーティを開催いたしました。

両先生も参加されて、講演の場では聞けなかったことや最近の話題など、時間いっぱいまでなごやかにかつ有意義に懇親会を終えることができました。

(技術委員 棚瀬 充史)

・技術発表会風景



・懇親パーティ風景



協会 20 周年記念パーティについて

任意団体の協会が昭和 60 年 4 月に発足して、17 年 4 月に 20 周年となります。

これを記念し、3 月の予算総会に合わせて、記念パーティの開催を予定しております。パーティにはこの 20 年間に協会の発展に貢献された元役員・委員の諸先輩にもご参加いただき、広く交流を深められる貴重な機会となることを期待しております。

詳細については、追ってご案内致します。

日時：平成 17 年 3 月 23 日(水) 18:00 ~ (予定)

場所：ホテルサンルート池袋
(池袋駅東口より徒歩 2 分)

原則として参加者全員会費制とする。

会費：5,000 円(予定)

行事日程

日程	行事名・内容等
2月10日(木)	新潟県中越地震報告会 (社)地盤工学会主催 (国土館大学図書館地下1階多目的ホール)
3月23日(水)	第14回通常総会 (健保会館(池袋)) 20周年記念パーティ (ホテルサンルート池袋)

会員(正会員・賛助会員)動静

- (1) 会員の入会(平成16年10月1日付) 2社
- ・千葉エンジニアリング株式会社 東京支店
所在地：〒170-0002
豊島区巣鴨2-4-13 日東ビル
電話：03-5907-3911 FAX：03-5907-3912
代表者：東京支店長 伊藤博之氏
 - ・株式会社 大東地質
所在地：〒136-0072
江東区大島2-20-3
電話：03-3638-3901 FAX：03-3638-3950
代表者：代表取締役 森澤定男氏
- (2) 代表者の変更
- ・株式会社 富士ボーリング
代表者 [新] 知久明氏
[旧] 知久満氏

・編集後記・

新しい一年がスタートしました。

昨年は振り返るまでもなく、台風や大雨、地震など、史上稀に大規模な自然災害の多発により国内各地に大きな爪痕を残し、また、国外においても年の最後に発生し、津波により多数の犠牲者を出してしまったスマトラ沖地震が記憶に新しく、被災地では深刻な事態が未だ続いています。

昨年は、我々人類が今まで蓄積してきた過去の経験やデータを超えた現象が顕著に現れた一年といえるのではないのでしょうか。

今年は、我々が自然環境に対応するために、環境・防災の観点からどのように社会貢献できるのか、我が地質調査業界にとって特に真価が問われる一年になると思います。



東地協ニュース 2004. 冬 第5号

発行・編集 (社)東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp

